



## ごあいさつ

理事長 高良 忠清

晩秋の候、会員の皆様には益々お元気でご活躍のこととお慶び申し上げます。平成23年度字小祿財産管理運営会の総会ですべての議案も原案通り承認されました。主な内容は本紙に総会資料を掲載しておりますのでご覧になって下さい。

今年の8月にブラジルにて字小祿田原字人ブラジル移民95周年記念式典が挙行され、今度のブラジル訪問は21名が8月14日に那覇空港を出発し参加しました。19日の式典では、約1,000人のブラジル小祿・田原字人会の会員が参加して、まず、先亡者の追悼慰霊法要がしめやかに執り行なわれました。法要は仏教式で寺院の僧侶が厳かに執り行ない、先亡者移民は民族・文化・自然の異なる大陸で血の滲むような苦難を重ねられ、今日の小祿・田原字人社会の輝かしい発展に寄与されたことに私が追悼の辞を述べました。次いで記念式典に移り、主催者の挨拶に始まり各代表の挨拶があって、功労者に対する感謝状贈呈、字小祿・田原から招待された四名の紹介とその代表の挨拶、引き続いて祝賀芸能祭が食事を取りながら行われ、余興は夜の10時頃まで続き、賑やかな内に終宴しました。祝宴の最中、多くの親戚、知人、友人等に会うことができ、又、知人・友人を作ることができて有意義な親善交流ができました。

また、招待者四名はブラジルの小祿田原字人会が同会人の仕事や社会的活動を実際に見てもらうために渡航費や滞在費を負担し招待した者でありました。実際に多数の化粧品販売店、スーパーマーケット、工具・金物会社等を見学した後、リオデジャネイロに飛び、イパネマ海岸、コパカパーナ海岸、ボンジアシューカを見学、翌日はリオからイグアスの滝へ飛び、その次の日は空路、カンポグランテへ飛んで字人会長照屋勇氏の経営する牛7千頭の飼牧場に行き、規模の大きさに驚いて帰って来ました。大きな収穫を得て帰国したと思います。

滞在中、盛大な歓迎会や会食等大歓迎を受けブラジル小祿田原字人会の皆様に心から感謝を申し上げます。

## ■ブラジル小祿・田原字人会 移民95周年記念祝典



高良 政法  
3班・三男ニシ大里

今回、ブラジル小祿・田原字人会より、小祿・田原と絆を深めていくために、指導者の人材4名を招待したいという話を受け、95周年記念式典に併せて字小祿から3名、田原から1名を派遣しました。派遣された字小祿の3名にブラジルでの感想を書いていただきました。

がサンパウロには、40以上もあるそうです。沖縄の字小祿では、あまり聞かなくなつた純粋なウルク方言や小祿文化、しきたりなど、温かいチムグクルが残っている事は、先人の皆様の残された素晴らしい功績だと確信しました。

翌日からは、字小祿・田原字人会の経営されている多くの会社や企業を訪問しました。大陸と同様に桁違いの大きな企業や親族経営の会社まで訪問させて頂きました。経営者の方々と話をさせて頂いた中で、1994年までインフレ時代の体験を拝聴する機会がありました。

インフレ当時は大変だったが、模合などのウチナンチュ独特の助け合いで資金調達し難局を乗り越えた話は特に印象深く残りました。その他に成功されている方々が共通している事は、家族や、親戚、門中、字小祿出身者、更にはウチナンチュや、出会う人々を分け隔てなく大切にしている事だと思いました。

そんなブラジル社会でのウチナンチュや日本人は信用と信頼が築かれていました。それも1917

年にサントスに上陸された一世の先人方々が築き上げた事が基礎になつている事は、言うまでもありません。ブラジルでは、2年後はワールドカップ、4年後にはオリンピックを開催する予定で経済も上向き状態を迎える事になりそうです。今後は、沖縄からブラジルに就職で若い人達が働きにいけないようなグローバル時代がやってくる事も想定できると思います。ブラジルの字小祿・田原字人会の皆様は、故郷に貢献できる事を考えているようです。沖縄の子供達向けの研修制度や新たな移民の為のシステムが出来る事を期待します。ブラジルがとて近くに思える様になってきました。今回、私を含め4名が、これからのブラジルとの交流の礎になるように行動していきたいと思つています。今回の訪問の際に、人生観が変わる体験をいっぱいさせて頂きました。ブラジルで出会った方々やブラジル小祿田原字人会、会長の照屋マリーオ勇氏には、たいへんお世話になりました。心より感謝しております。



ウチナンチュが経営する  
化粧品店にて

## 大きな驚きのブラジル派遣



高良 康司

1班・佐久川

以前からの念願がかない今回思いがけない形で初めての渡伯を果たすことが出来ました。

沖繩で何度か顔を合わせている在伯の親類とも、自分が長旅をしてあちらで逢うと沖繩で会うのとは違う感慨があり、さらに絆が強まった気がします。

とにかくあちらでの歓迎ぶりは想像以上で、移民の皆さんの故郷・ルーツである、沖繩・小緑に対する熱い想いが伝わってきました。

さらに、あちらでの会話で普通に飛び出してくるウチナー口やウルク言葉、また門中墓・トートーメー・火又神・旧盆などの文化や風習が受け継がれていることも驚きでした。

また、今回わかって何よりも驚いたことは、ブラジルには沖繩にいるウルクンチュと同じかそれ以上の人数のウルクンチュが暮らしているということですが、数多くのウルクンチュが事業を起し大きな成功を取めていることにも驚かされました。そして今回盛大に行われた宇小緑・田原からの移民95周年記念祝典でのブラジルのウルク

ンチュの団結力を目の当たりにし、準備の段階から本番まで幅広い世代が集い、目的に向かって共に進んで行くことができていることが本当に凄いと感じました。

私自身過去2回の世界のウルクンチュ・タバルンチュ歓迎親善交流大会に係ってきましたが、これ程の熱気があっただろうかと思われました。

こうして見ると、現在の小緑では薄くなつてしまつたと感じる地縁・血縁・門中を中心とする人と人の結び付きがブラジルでは今も尚強固で濃く、これがこの様な行事の際に私達沖繩からの訪問者を圧倒する大きな力の源であると思えますし、できれば、我が宇小緑も自治会活動を更に活発化(青年部及び30・40代の自治会活動の参加者の増加が必須)させたいものだと思います。

そして、もしブラジルに親類がおられる方には2年後のサッカーワールドカップと4年後のオリンピックに向けて発展しているブラジルに是非行かれることをお勧めしたいです。

次回の世界のウチナーンチュ大会にはブラジルからまた多くの方々が参加される様なので、こちらにもあちらに負けない様な歓迎ができればと思っています。

また5年後の宇小緑・田原移民100周年記念祝典には是非行きたいと思い、今から少しずつ旅費の積立を始めています。

## ブラジル親善訪問に参加して



高良 吉広

5班・仲天久小

宇小緑田原からの研修生4人は、今回ブラジル小緑・田原宇人・移民95周年記念祝典および研修にご招待いただき、極めて貴重な経験をさせていただきました。

私は今回初めてブラジルを訪れましたが、ブラジル・サンパウロ空港に到着すると、歓迎の横断幕を持った宇人会の方々に熱烈に歓迎していただき、異国の地でありながら、小緑に戻つて来たかのような安堵感に包まれました。初めてお会いする方々ばかりでしたが、とても親しく接していただき、まさに「いちやりばちよーでー」で、温かおもてなしに感激しました。

宇小緑田原からの研修生4人は、今回ブラジル小緑・田原宇人・移民95周年記念祝典および研修にご招待いただき、極めて貴重な経験をさせていただきました。

私達4人は、ブラジルで成功された方々の会社訪問から始まりました。現在特に化粧品店、金物店、スーパー等の分野にお

いて成功を収めており、成功の秘訣は、小緑・田原出身者間で情報交換を密にし、社会の需要を見出し、儲けそうな分野を探し、互いに競争しつつも共存できるように店舗を展開してきたことにあるようです。まさに「ゆいまーる」の精神が発揮されていると感じました。さらに話を伺っていると、日本人・ウルクンチュとしての、誠実さ・勤勉さも後押ししていると感じました。

ブラジルはゆるやかな社会ですが、そんな中、お客様に対して誠実に商行為を行うこと、また従業員に優しくも不正が起らない企業体制を作ること等により社会的に信頼され、ますます売上も伸びているようです。

今後サッカーワールドカップやオリンピック等重要な行事が目白押しで、また人口も増加中で、ビジネスチャンスは拡大の一途で世界的な不景気を撥ね退ける勢いです。ブラジルは多様な人種で構成されており、差別が少なく、日系人にとっては誇りを持って仕事もしやすい土壌もあると感じました。また多くの方が、タナモウシ(模合)も非常に役に立っていると話していました。特にインフレ時には力を発揮し、多くの方々が、起業や自宅建築の資金として活用できたそうです。

移民一世の方々には想像を絶する多大な御苦労をされたそうですが、世代を重ねた今では余裕のある生活をされている方が多

く、宇人会活動も幅広く活発に行われており、三線教室にも多くの若人が参加し、真剣そのものでした。エイサー教室も多くの子供たちが参加し、レベルも高いものでした。

特に印象に残ったことは、沖繩生まれの一世ではなくても、二世三世、四世の方でも、那覇空港に到着し沖繩を訪れると涙が出てくるということでした。

「自分にウチナーンチュの血が流れていることを感じ、自分のアイデンティティーを再確認し、自分の基盤を確立して頑張っていこうという気持ちになる」とのことです。遠く離れていても皆さんの沖繩・小緑田原への想いは強く、私自身もウチナーンチュ・ウルクンチュとして誇りを持ちつつ邁進しなければと励まされた思いです。

今回の経験は筆紙に尽くしがたいほど感動的な出来事の連続で、まさに百聞は一見に如かずとの思いです。5年後には移民百周年祭が行われます。その際にも是非参加させていただきたいですし、小緑田原在住の多くの皆さんにも参加していただきたいと思えます。異国の地でウルクンチュ・タバルンチュがこんなに活躍され、また小緑田原の良き文化伝統を守り続けているのを目の当たりにするのは感動的であり、また励みにもなります。この機会を提供していただけたことを心より感謝申し上げます。